

新キューバ大使を囲んで — CUBAPON と懇談会

初の駐日女性大使、ヒセラ・ガルシア大使着任



(左から) オヘダ書記官・齋藤さん・ガルシア大使・君島さん・村上さん・鎌田さん
【撮影／根岸さん】

《ヒセラ・ガルシア大使のお話》

「5 人の英雄」の解放、経済封鎖への闘いを含め、30 年以上の連帯活動に感謝します。また、昨年のキューバ訪問では、皆さんが楽しんでくれているなら、嬉しく思います。

今年は連帯の取り組みとして、2 年に一度の「キューバ友好のつどい」を 11 月に予定しているほか、2024 年 10 月 29 日～31 日まで「第 10 回キューバ連帯アジア太平洋地域の集い」を中国福建省泉州市で開催することになっていますので、ぜひご参加下さい。

現在のキューバの課題は経済状況が苦しいことです。最大の要因は経済封鎖ですが、ほかにも世界的な紛争やコロナウイルスによるパンデミックの影響も大きな要因です。

経済の打開策としてキューバは自営業に力を入れ、2021 年以降、中小零細企業の振興と地方分権を進めてきました。

対日経済関係の改善に期待したいのですが、経済封鎖の中では非常に困難というのが現実です。特に、封鎖により銀行決済できないことが大きく影を落としています。

ラミレス前大使の後任として、初の女性大使、ヒセラ・ガルシア大使が着任されたことを受け、2 月 27 日、キューバ大使館において CUBAPON との懇談会が開かれ、君島・齋藤両共同代表、鎌田事務局長、村上次長、役員の根岸さんの 5 人が参加しました。

懇談会は、前年 11 月から 12 月にかけてキューバの現状に触れてきた CUBAPON 訪問団の率直な感想を聞きたいとの大使館の希望で行われたもので、主にキューバの厳しい経済状況について意見交換を行いました。



日本とは政治体制やイデオロギーの違いがあっても政治レベルでは潤滑で、各政党とも友好的な関係を築いています。日本は米国の同盟国ですが、キューバに関しては「反キューバキャンペーンに乗ることなく、ODA などを通じてキューバにとって死活性を持つ支援活動を担ってくれています。

さまざまな困難の一方で、 頑張るキューバを見てきた

ヒセウ・ガルシア大使のお話に続き、CUBAPON から、「5 人のキューバ人土解放に向けた 100 人委員会」の結成や青年の島での稲作プロジェクト、日系人協会との交流、28 回にわたる友好訪問団の派遣など、この間、連帯活動の中で体験したことなどをお話してきました。

「『5 人の英雄』のご家族の希望で盆栽を送ったが、どうも届かなかったようだ」、「米国による『テロ支援国家』に指定されていることで、訪問団の費用が銀行決済できず、1 年以上にわたって大変な苦勞をしてきた」、「パンデミックと通貨統一の影響で『友好の家』日系人協会本部』建設が停滞している」など、米国による経済封鎖でキューバが強いられている困難が私たちの連帯運動にも大きな影を落としています。

また、昨年のキューバ友好訪問団も、青年の島に飛び飛行機の故障や船の欠航など、さまざまなトラブルに見舞われましたが、経済封鎖がそうした事態を引き起こしている主な要因であることは明らかです。

キューバ訪問の中で、さまざまな困難を目にする一方、苦難を乗り越えようと頑張るキューバの姿も見えてきました。そうしたキューバの頑張りに学び、寄り添い、応える CUBAPON でありたいとの思いを強くしました。



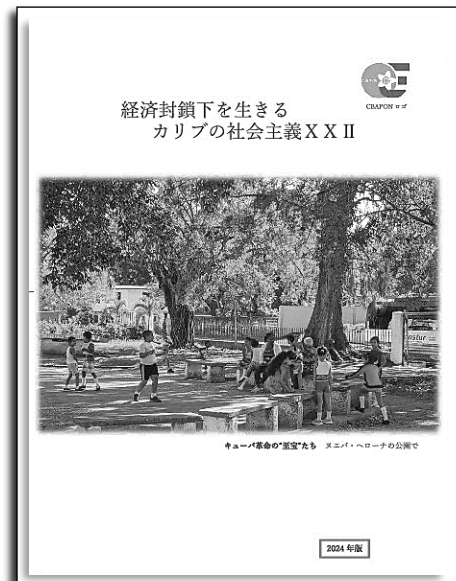
この秋、キューバ連帯ラッシュ！

ガルシア大使がお話の中で触れた連帯活動の他、この秋、さまざまな取り組みが予定されています。CUBAPON としてもできる限り対応をしていきたいと考えています。

- ◆ 10 月 25 日（金）
ICAP フェルナンデス総裁来日！連帯交流会
- ◆ 10 月 29 日～31 日
第 10 回キューバ連帯アジア太平洋地域の集い（中国）
- ◆ 11 月
「キューバ友好のつどい」

キューバ訪問報告書、完成！

『経済封鎖下のカリブの社会主義XXII号』



多くの制約と度重なる延期の末、4 年ぶりとなった 2023 秋の訪問団は「訪問することが闘いであり連帯だ」との位置付けでようやく派遣にこぎ着けました。しかし、キューバ滞在はスケジュールの変更に次ぐ変更で、よく帰国だけは予定通りできたものだと思います。

パンデミックによる経済疲弊と二重通貨制廃止の期に乗り、2021 年 1 月のトランプ政権終了直前に米国は「テロ支援国家指定」による制裁強化をしてきました。また、同年 7 月には米国による「反政府デモ」策動が行われてきました。

こうした中で、キューバの困窮は想像してはいましたが、訪問団が見聞・体感したキューバの状態は想像以上の深刻さでした。

報告書はポリクリニック、労働組合中央組織（CTC）、諸国民友好協会（ICAP）、移民 125 年を迎えた日系人協会、クバポンの稲作支援地など、それぞれのキューバをレポートしていますが、今回の報告書の注目すべき点は参加者がそれぞれの想いを綴った「感想」の項にあると思います。キューバの”リアル”と「きれいごとでないキューバの現実を見つめた上で連帯とはなにか」についてそれぞれが触れています。ぜひ、ご一読下さい。

A5 版 90 頁 頒価 800 円＋送料 250 円

● お申し込み先：日本キューバ連帯委員会まで
FAX03-3268-6079

E メール：jvccpf@mail.plala.or.jp

● お支払い：申込と同時に下記口座に所定費用（1 冊＝1050 円）をお振込みください。
振込確認後、送付いたします。

ゆうちょ銀行 〇一九店 195919
日本キューバ連帯委員会



皆さまの協賛で 2023 年度もキューバ連帯活動を続けることができました。
ありがとうございました。



CUBAPON 2023 年度収支報告

● 支出の部		
会報印刷代	118,470	69号、70号、各780部
その他印刷代	67,430	チラシ、封筒、資料等
送料 送金料	144,112	会報、連絡、郵振など
事務局諸費	71,360	HP、PC インク、交際費等
事業費	252,000	23訪問団事務局員費
資料代	10,000	移民DVD、贈呈用
借入金返済	34,210	22借入返済
計	697,582	

● 収入の部		
23繰越	0	
23会費	240,000	80人
23活動カンパ	252,000	44人から寄付
借入金	205,582	FCCより
計	697,582	

- ※ 2023 年度は「訪問団」を催行することに集中し 4 年ぶりに実現してきました。この催行にあたり事務局経費等、多くの事業支出を余儀なくされました。
- ※ 催行理由は、「キューバを訪ねてくれることがなよりの連帯だ」との声に応え「キューバ連帯・支援」の闘いとして位置付けたことによります。
- ※ 会員数及び活動カンパ件数はほぼ前年度同様で推移しました。ただ、経常収支バランスは訪問団実施関連支出が影響し 205,582 円の借入が生じました。
- ※ 会報 2 回発行により印刷、送料等は前年より減少しました。ただし、会報は 3 回発行が望ましいです。
- ※ 別途プールされていた移民記録 DVD 製作プール金残金 332,150 円は、前年度の「スペイン語版製作が進展しない場合別途有効活用を考える」との処理方針にもとづき、訪問団員数のグループ割れによる費用増加への補填に充てました。

CUBAPON の会費・寄付金の振込先

●郵便振替口座

番号：00170-2-195919
口座名：日本キューバ連帯委員会

●ゆうちょ銀行口座

番号：〇ー九（ゼロイチキウ）店 195919
口座名：日本キューバ連帯委員会

CUBAPON 年会費の値上げに 皆さまのご理解をお願いします

CUBAPON 結成以来 30 年、皆さまにご協力をいただいてキューバ連帯活動を続けることができました。心から御礼申し上げます。

さて、結成から年会費 3,000 円を維持して参りましたが、2024 年度の活動を開始するにあたり、送料と印刷費の高騰により、協賛会費を 5,000 円とさせていただくことになりました。

皆さまには、事情をご理解いただき、継続のお手続きをよろしくお願い申し上げます。

引き続き活動カンパにご協力ください

CUBAPON は会費とカンパで運営しています。

キューバ連帯の旗を掲げるとともに、ラテンアメリカ人民の主権を守る闘い、反植民地主義の闘いに連帯する



CUBAPON の活動にご理解をお願いするとともに、活動カンパのご協力も併せてお願い申し上げます。

TOUR FACILITATOR

アイエフシーは

CUBAPON の活動ファシリテーターです。

あなたをキューバ連帯に

- ◆アイエフシーは IFCC 国際友好文化センターの関連会社です。“人と人との出会い”を通した友好・交流プログラムを演出します。
- ◆アイエフシーは文化、政治、福祉、環境など各分野の視察、研修、調査のプログラムをお手伝いします。
- ◆アイエフシーはキューバなど中南米、ベトナム、中国などアジア、ドイツなど西欧、デンマーク等北欧訪問プランをサポートしています。

〒162-0801

東京都新宿区山吹町 316 番地 菊地ハイツ 101

TEL03-3268-6014 FAX03-3268-6079



リオ・ブラボーからパタゴニアまで ボリーバルが夢見た「一つの祖国」を築くときがきた

3月1日、セントビンセント・グレナディン諸島で開催されたCELAC（ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体）第8回首脳会議でディアス＝カネル大統領が「一つの祖国」を呼びかけました。

親愛なる、兄弟のラルフ・ゴンサルベス首相、あなたと、セントビンセントおよびグレナディン諸島政府に、寛大な歓待と、カリブ海の英語圏の小国がこのような大規模で多様な国家グループを率いて、今日終える任期の間のCELACの素晴らしい活動について感謝いたします。

地域レベルおよび世界レベルでの政治的な課題に悩まされたこの期間中に、CELACが見事に成果を収めたことは、ラテンアメリカ・カリブ海地域の統合に対する政治的な意志と姿勢があれば、国の規模は問題ではないことを示しています。

私たちは再会し、唯一の共同の観点が、勇気と興奮を与えてくれます。2011年のカラカスでの最初の会合以来、私たちが統合に向けて共に前進することを約束し、統合を喫緊の課題と定めたときから、私たちが負っている多くのことについて、確固たる確信が生まれるほど、すべてが新たに始まるように思えます。

キューバ革命の歴史的指導者であり、ラテンアメリカ・カリブ海諸国の統合を熱心に推進したフィデル・カストロ・ルス最高司令官は、2010年にカンクンでCELACの創設が決定されたことについて、「前世紀の間、私たちの半球において、同じような画期的性格を反映した制度的出来事は、他になかった」と述べました。そして、「今日、世界経済を支配している大グループを前にして、統合され団結したラテンアメリカなしに、私たちの人民の未来に居場所はあるのでしょうか？」と問いましたが、その回答は、まだ出ていません。

国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会によると、2024年、ラテンアメリカ・カリブ海諸国の経済は低成長を続け、すべての地域で2023年よりも成長率が低下する見込みです。私たちは、地球上で最も不平等な地域であることに変わりはありません。この地域には1億8,300万人の貧困層がいます。これは人口の29%に相当し、そのうち7,200万人が極貧の状態にあります。この数字の半分が子供と青年であることは深く憂慮すべきことです。

2014年から2023年にかけての雇用創出は、1950年代以降、この地域で最低となっています。2億9,200万人の就業者のうち、2人に1人が非正規雇用で、10人に4人が最低賃金を下回る収入です。雇用と所得における男女格差は拡大しています。

ラテンアメリカ・カリブ海諸国では、10歳未満の子どもの5人に4人は読み書きができません。パンデミック後の不安定で貧困な世界では、ラテンアメリカ・カリブ海

諸国も例外ではなく、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」の大半の目標を達成することはできないでしょう。

偉大な祖国の兄弟の皆さん！

このような不公正な概観や、統合主義的な行動の未達成が積み重なっているにもかかわらず、CELACが維持してきたこの多様性の中の結束は強固なものとなっていますが、まだ多くのことが残されています。この点に関して、ラウル・カストロ・ルス革命軍将軍は、カラカス首脳会議で、「ラテンアメリカとカリブ海諸国の団結と政治的、経済的、社会的、文化的統合は、地域として直面する課題に成功裏に立ち向かうために必要なことである」と表明しました。

CELACが設立の目的を達成するためには、首脳会議とその宣言は、実際の効果を評価するのは困難で、それだけでは十分ではありません。統合の主役とその主な受益者は、私たち国民でなければなりません。

私たちが望むのは、平和、主権、連帯、ヒューマニズムを無制限に擁護することを優先する統合です。また、ラテンアメリカと・カリブ海諸国が国際舞台で自らを再位置付けすることを可能にする統合です。私たちの姉妹のカリブ海諸国が、公正で特別な差別待遇を受ける権利を認め、500年にわたる収奪と奴隷制に対する正当な補償を一致団結して主張することに貢献する統合です。私たちは、すべての人に完全な尊厳と社会正義を保障する統合を熱望します。

親愛なる友人の皆さん！

キューバにとって、パレスチナ人民に対して行われたジェノサイドを改めて強く非難することは避けられません。過去5ヶ月間にガザ地区で約3万人の市民が虐殺され、そのほとんどが女性と子どもであるにもかかわらず、沈黙を守ることは、容認できないだけでなく、人間の尊厳に反するものです！私たちは、ファシズムが進行しているときに見て見ぬふりをし、結局はその犠牲となった人たちに起きたように、無関心な人たちに少なくとも良心と歴史からの非難が注がれるような蛮行には決して加担しません。拒否権を行使して国連安全保障理事会を麻痺させ、不法占拠者に武器を供給し、イスラエルが完全に無罪で行動できるようにしている米国政府の共犯関係を無視することはできません。

10年前、私たちはハバナで、ラテンアメリカ・カリブ海地域を平和地帯として宣言し、この地域から武力行使を永久に追放するという歴史的な決定を下しました。友好と協力を促進するというこの意志は、いかなる相違も超えて、地域内外の関係において、私たちは、承認しなければなりません。米国がこの地域における米国の覇権に触れてはならないと世界に警告したモンロー・ドクトリンの宣言から2世紀が過ぎました。時は流れても、野心は終わっていません。21世紀に入っても、彼らが合法的政府として

は否定する、合法的な政府に対する脅しや圧力、一方的な強制措置は続いています。しかし、諸国人民は、自由への希求と、国家および地域の主権を最後の結末まで守り抜くという、消すことができない決意を失ってはいません。

私たちは、ボリーバル革命と、その大統領であるニコラス・マドゥロ・モロス同志が率いる人民の市民・軍連合に対する私たちの確固たる支持を確認します。

私たちは、ニカラグアの憲法秩序を破壊しようとする試みに直面している、サンディーノの地とダニエル・オルテガ大統領への支持を改めて表明します。

私たちは、ハイチの安定した平和を支持します。ハイチの持続可能な発展のためには、援助と協力の拡大が緊急に必要です。

私たちはコロンビアの和平に尽力しており、その尽力に、キューバは可能な限りの貢献を続けます。

私たちは、ベネズエラとガイアナの姉妹国間の協議と歩み寄りの努力を支持し、今後も支持し続けます。私たちは、米国政府やその他の勢力の干渉意図に断固反対します。

私たちは、プエルトリコの自決と独立に対する揺るぎない支持を維持し、マルビナス諸島、南サンドイッチ諸島、南ジョージア諸島とその周辺海域に対するアルゼンチンの正当な権利を支持します。

我がアメリカの同胞の皆さん！

私は、キューバ国民を代表し、キューバに対して 60 年以上続いている犯罪的で違法な封鎖の解除を要求する、ここに出席している、すべての国々に感謝の意を表します。この非人道的な政策による深刻な被害は、キューバが一方的な欺瞞のテロ支援国家リストに掲載されたことで、極限にまで高まっています。ラテンアメリカ・カリブ海諸国の姉妹諸国が、キューバをこの欺瞞のリストから除外するよう強く要求していることに深く感謝します。

北の強力な隣国は、キューバに対する多次的な戦争において、何百万ドルもの資金と精緻な非常型戦争マシンを投入しています。人権や民主主義といった普遍的にデリケートな問題を操り、中傷キャンペーンと社会的爆発を求める経済的窒息政策を混合して、政治的变化を強要しようとする決して放棄されたことがない試みです。

最後に、ホンジュラスと親愛なる姉妹のシオマラ・カストロ大統領に対し、次期 CELAC 議長国としての彼女のリーダーシップに対する私たちのあらゆる支援を申し上げたいと思います。

キューバは常に、ラテンアメリカ独立の英雄たちが命を捧げた、リオ・ブラボーからパタゴニアに至る統合プロジェクトを強化する努力の最前線にいます。

今こそ、ホセ・マルティが見事に表現した「われらのアメリカ」の概念を現実のものとする時です。シモン・ボリーバルが夢見たように、「ひとつの祖国」を築く時が来たのです。

私たちのアメリカの地平線上にユートピアとして釘付けにされた何世紀もの夢である「統合」が、再び私たちを揺さぶりました。私たちの諸国人民のより良い未来のために、それを達成しようとする意志を休ませないようにしましょう！

ありがとうございました（拍手）。

キューバを「テロ支援国家リスト」から除外せよ！



CUBAPON からキューバへ連帯メッセージ



CUBAPON

日本キューバ連帯委員会

#101 Kikuchi Bldg. 316, Yamabuki-cho, Shinjuku-ku, Tokyo 162-0801 Japan

PHONE: (81) 03-3268-4387 FAX: (81) 03-3268-6079

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 316 菊地ビル 101 IFCC内

Tokio, 11 de Junio de 2024

Cuba nunca es un país patrocinador del terrorismo,
sino un promotor de la paz

Valoramos que EE.UU. haya excluido a Cuba de la lista de países que, según ellos, no colaboran plenamente con "sus esfuerzos antiterroristas". Pero, el Departamento de Estado de EE.UU. todavía mantiene a Cuba en la "Lista de Estados patrocinadores del terrorismo".

Cuba es reconocido por todo el mundo como un promotor de la paz y nunca es, y ha sido un país patrocinador del terrorismo.

Condenamos enérgicamente la política injerencista e intervencionista del imperialismo estadounidense, y exigimos que quite a Cuba de la Lista de países patrocinadores del terrorismo.

Saludamos la lucha del gobierno y pueblo cubano, resistiendo por más de 60 años el hostigamiento ejercido por el imperialismo a través del bloqueo y demás todas formas de coerción, pero ¡no conseguirán!
Hasta la victoria siempre.
¡Venceremos!

(要旨)

キューバは断じてテロ支援国家ではなく
平和の原動力である！

米国が、彼らの言うところの「反テロ活動」に十分に協力していない国のリストからキューバを除外したことは評価する。

しかし、米国国務省は、未だにキューバを「テロ支援国家」リストに掲載し続けている。

キューバは、世界中から平和の原動力と認められており、今も、今までも、テロ支援国家であったことは一度もない。

私たちは、アメリカ帝国主義の干渉・介入主義的政策を、力を込めて非難するとともに、キューバをテロ支援国家リストから除外することを求める。

私たちは、60 年以上にわたって、経済封鎖やその他、すべての強制を通じ、帝国主義によって実行されている嫌がらせに抵抗し続けているキューバ政府とキューバ人民の闘いに敬意を表する。彼らは絶対に達成できない。

永遠の勝利の日まで
勝ち抜こう！

2024 年 6 月 11 日
日本キューバ連帯委員会（CUBAPON）

「キューバの友人」撃たれる！

—スロバキア首相、暗殺未遂事件—

5月15日、スロバキア北西部の町で、ロベルト・フィツォ首相が男に至近距離から銃弾5発を発射され、1発が腹部を貫通、他の銃弾は頭部と胸部に命中してヘリコプターで病院に緊急搬送されました。

日本のニュースでは「左派ポピュリスト」と報じられたフィツォ首相ですが、スロバキア事情に詳しいブロガー、Yurii Kazakov 氏の手記から、フィツォ首相はキューバと関係の深い政治家で、暗殺未遂事件の背景には現在のスロバキアの状況やメディアの問題が横たわっていることがわかりました。

「キューバの友人」フィツォ首相はどんな人物か、犯人である70過ぎの男を凶行に走らせたものはなにか、Yurii Kazakov 氏の記事を共有します。

尚、フィツォ首相は重態から奇跡的な回復を見せ、6月下旬には職務に復帰する見通し、とのことです。



2015年、スロバキアのロベルト・フィツォ首相はキューバ公式訪問で、ラウル・カストロ（当時）議長と会談した。フィツォ政権のキューバに対する姿勢は、社会主義国時代のスロバキアに対するキューバの負債を帳消しにしたことに象徴される。これに対し、スロバキアの「リベラル派」メディアは当然、天に響きわたるほどの叫び声をあげた。リベラル派の当時のスロバキア大統領アンドレイ・キスカもフィツォのキューバ訪問を批判した。

私（Yurii Kazakov 氏）がスロバキアに住んでいた最後の数年間は、第一次フィツォ政権（2006-2010）の頃だった。フィツォがフィデルの誕生日にキューバ大使館へ祝福に赴いたときのリベラル派の大騒ぎを私は今も思い出す。彼らはキューバを孤立させなければならないと考えているのだから、首相がキューバ大使館に行ったことで、当然、激怒した。しかし彼は、その日は必ずキューバ大使館を訪れ、フィデルの誕生日を祝福していたのだ。

2007年、フィツォのリビアのカダフィ大佐との会談も大いに物議を醸した。フィツォによれば「世界的な帝国主義との闘い」について話合ったという。



極的な態度に見える（その1枚だけかもしれないが）。

彼が米国のオバマ大統領を訪問したときも、一枚の写真を巡ってリベラル派は当然、天に向かって叫び声をあげた。オバマとフィツォが映っているその写真では、確かにフィツォはポケットに手を突っ込んで、かなり消

彼は、首相に就任する前からプーチン大統領とは何度か会談している。ソ連軍の記念碑に常に花を手向けていた。



それに加えて、彼の発言が物議を醸した。彼はこう言った。「ソ連軍6万人の命を犠牲にスロバキアは解放されたということは恥ではない」と。彼は言葉を少し変え

ながら、何度かこのことを口にしてきた。第二次世界大戦の戦勝記念日にロシアを訪れたときも「誰もこの事実に疑いを抱くことはできない。スロバキアの解放のために63,000人のソ連兵士が戦いの中で亡くなった」と言った。彼はこのことを何度も口にし、ソ連軍と社会主義国スロバキアの記憶をすっかり消し去ろうと躍起になっているリベラル派と保守主義者たちを憤慨させてきた。

2017年、ナチスがパルチザン運動への報復としてカチャク、オストリーニ、グルーニで行った虐殺（1945年1月）の追悼式典に出席したフィツォは、ファシズムの危険性について言及し、この地域の2つの地域でファシスト党がそれぞれ17%と6%の得票を得たことに警告を発した。「ファシズムがスロバキアに少しずつ忍び寄っていると言う人がいるが、そうではない。ファシズムは既にここにある。議会に代表として出てきて、多くの人々を殺害した者たちの思想を我がものとして語っている」と言った。

しかし、ある者たちは、スロバキアがそんな事になっているなど思いもせず、或いは気にも止めずに、彼をファシストだと非難さえしたのだ。

私はズリンダ右翼政権の最後の時期から第一次フィツォ政権が始まった頃にスロバキアに住んでいたが、ファシストによる攻撃は頻繁に起きていた。確かにスメル（フィツォの政党）は、一夜にして事態を一転させたわけではないが、着実に変えてきた。

ある人々によって繰り広げられている反フィツォキャンペーンには吐き気がする。



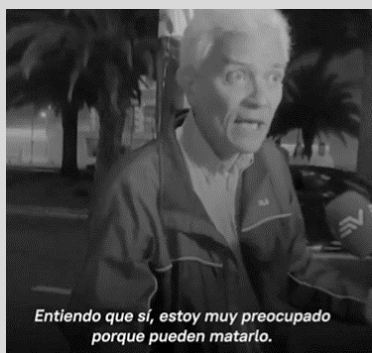
いま、中南米では

中南米情勢が緊迫しています。
CUBAPON はキューバ連帯の旗を
掲げるとともに、中南米の人民の闘
いと状況を発信します。

メキシコ VS エクアドル

4月5日、エクアドルがメキシコ大使館に侵入、政治的弾圧から避難していたホルヘ・グラス元副大統領を拉致しました(写真:右・上)。

その間、駐エクアドル・メキシコ大使館臨時大使ロベルト・カンセホ氏を不当に取り押さえ、負傷させました(写真:右・下)。



ロベルト・カンセホ氏：

エクアドルのメキシコ大使館に、犯罪者たちがどのように押し入ったか！あり得ない！あてはまらない！目茶苦茶だ！グラス氏が殺害される恐れがあり、とても心配だ。こんなことに何の道理もない！完全に無法だ！

メキシコのロペス・オブラドール大統領は即時に「国際法とメキシコの主権に対する明らかな違反」と非難、エクアドルと国交断絶しました。

また、ニカラグアもその日のうちに国交断絶、ブラジル、コロンビア、キューバ、ホンジュラス、ベネズエラなどがエクアドルを強く非難し、メキシコとの連帯を表明しました。



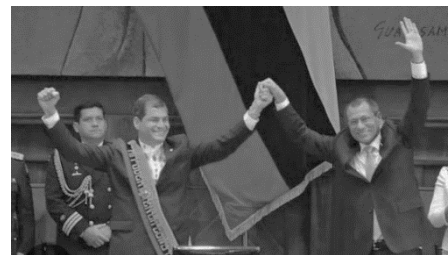
メキシコはこの件を国際司法裁判所に提訴しましたが、残念ながら却下されてしまいました。しかし、大使館への不法な侵入は明らかな国際法違反であり、ロペス・オブラドール大統領(写真・上)は主権を守るため闘い続けるとしています。



4月17日、コロンビアを訪れペトロ大統領と会談したブラジルのルラ大統領は「私が前に大統領を務めた2003年から2011年はラテンアメリカの最高の時代だった」と漏らしたと言います。ベネズエラにチャベス、エクアドルにコレア、アルゼンチンにキルチネル(夫妻)、ボリビアにエボがいて「南米大陸」と呼ばれた時代です。右派政権は存在しましたが、突出して異様な政権はありませんでした。

今回、メキシコ大使館に異例の「討ち入り」を行ったエクアドルのノボア大統領(写真左上)年は36歳と若いですが、国内きっての富豪「バナナ王」を父に持ち、ハーバード大学ケネディ・スクールやジョージ・ワシントン大学の大学院で政治学の修士号を取得した、ラテンアメリカの伝統的な古いタイプの政治家と言えます。エクアドルにとって幸いなのは、前任のラッソ大統領が任期途中で辞任したため、ノボアの1期目の任期は1年半で、2025年5月に再び大統領選挙が行われます。今度こそ、まともな大統領を選んでほしいです。

【ホルヘ・グラス氏】(写真・右)



2013年、ラファエル・コレア(左派)大統領の当選とともに、副大統領に就任し、コレアの後継と見なされたレニン・モレノ大統領のもとでも副大統領に就任したが、2017年、モレノの突然の裏切りでコレア元大統領とともに贈収賄事件で訴追され、収監されたが、2023年12月、仮放免中にメキシコに亡命を申請し、認められてメキシコ大使館で保護されていた。

メキシコ

6月2日（日）開票で行われたメキシコ大統領選挙で、クラウディア・シェインバウム候補が2位3位候補に大差をつけて当選し、メキシコ初の女性大統領が誕生することとなりました。

物理化学界出身のシェインバウムは、当時、メキシコシティ市長だったロペス・オブラドール（のちに大統領）によって首都の環境省長官に抜擢されたのをきっかけに政治に携わり、ロペス・オブラドール氏の大統領選挙ではスポークスマンを務めた経験を持つ、名実ともにロペス・オブラドール現大統領の後継者です。現大統領が築いてきたキューバとメキシコの良好な関係の維持が期待できそうです。

キューバ

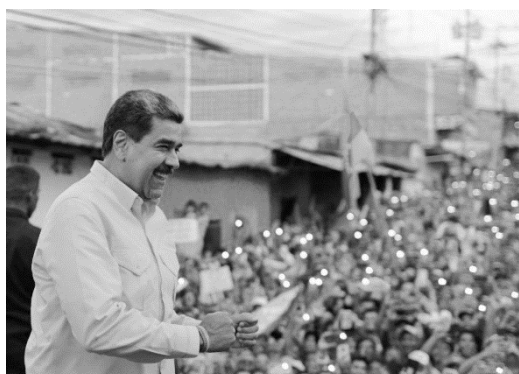


No mentir,
no robar
y nunca
traicionar
al pueblo
de México

CLAUDIA
SHEINBAUM
PRESIDENTA
2024 - 2030

嘘をつかない
盗まない
決してメキシコ人民を裏切らない
—クラウディア・シェインバウム

ベネズエラ



ベネズエラ大統領選挙は 7 月 28 日（日）に行われます。

寡頭勢力の影響が強いベネズエラのメディアはマドゥロ不利を伝えています。マドゥロ勝利の後に「不正選挙」を言い立てるための布石とも考えられます。

キューバと関りの深いベネズエラの行方に注視しましょう。

ハバナ港にロシアのフリゲート艦「ゴルシコフ」、原子力潜水艦「カザン」、タンカー「パシン」、救助タグボート「ニコライ・チケル」の4隻が分遣隊として入港しました。

これに先立ち、6月5日にプーチン大統領が「ロシアに対してやったのと同じように、その国を攻撃できる場所に同じレベルの武器を供給する権利が我々にはある」と発言したことから、「ロシアがキューバに武器を供給して米国を直接攻撃させるのでは」との憶測が流れ、当日、マイアミビーチ上空を軍用ヘリ、航空機、偵察ドローンが途切れることなく飛び回っていたそうです。

米国という国は、自分はどんな無法なことも平気でやるくせに、人がやることは何でも「脅威だ」と言って大騒ぎ。本当に嫌な隣人ですよ。

事前にアナウンスされた予定ではロシア水兵さんたちが表敬訪問

とハバナ観光をする他、敬砲と祝砲21発を撃ち合うセレモニーをするとのことですが、見物に来たハバナっ子たちを甲板に招待して、なごやかに交流する様子も伝えられています。

セニョリータのラ米★ウォッチ

CUBAPON ニュースを補完するツールとして、中南米を中心に「今、起きている」ホットなニュースをセニョリータ視点でピックアップし、メールでお届けしています。

配信ご希望の方はこちらのアドレスにメールを送って下さい！

jvccpf@rmail.plala.or.jp

